

CONTENTS ◆秋のつどいレポート ◆おくさわ今と昔 ◆街の落ち葉掃きプロジェクトについて
◆描かれた奥沢とその周辺 ◆フラワーアレンジメント講習会報告 ◆会からのお知らせ

秋のつどいレポート

まちめぐり(用賀・砦)

2010年9月26日(日)秋晴れの日、《秋のつどいまちめぐり》に参加しました。

用賀プロムナード→砦公園→フラワーランドのコースです。

●用賀プロムナード

用賀駅前には、百人一首最初の「秋の田の かりほの庵の ……」(天智天皇)の歌が歩道に刻まれており、そこを第一歩として《まちめぐり》をスタートしました。散策の途中では、「小さい頃よく百人一首をやったものだ」との声が聞こえてきました。ただ、よく聞いてみるとどうやら「坊主めぐり」だったり、在原業平の「ちはやぶる…」や崇徳院の「瀬をはやみ…」の歌



(天智天皇の歌)

の前では「落語にあるね」といった楽しい話題になりました。また、《二条通り》という標識の前では、理事の鈴木さんから、



(二条通りにて)

碁盤の目のようになっている用賀の町は、昭和初期から始められた玉川全円耕地整理により整備されたものという説明があり、歴史的な経過についても学ぶことが出来ました。



(砦公園入口)

●フラワーランド

園内では、奥沢二丁目にお住まいで、フラワーラ

ンドの藤正さんが迎えてくださり、フラワーランドの特徴は、「花づくり教室」の卒業生や現在の生徒達が花壇の管理をしていること。無農薬、無化学肥料で環境にエコで優しい園芸に取り組んでいること。本数は少ないが数多い種類の草木があること等が挙げられるとの説明を受けました。

広場には、大きな山法師の木があり赤橙色の実が沢山実っていました。「実は食べられますよ」と説明を受け食べてみました。ちょっと甘みがありましたがさほど美味しいというものではありませんでした。



(藤正さんの説明)

園内には、「宿根草の庭」「ローズガーデン」「ハーブガーデン」「水車と山野草の庭」のエリアがあり、藤正さんにはそれぞれの所で丁寧に説明していただき、質問にもわかりやすくお答えいただき、大変勉強になりました。



(ハーブガーデン)



(水車と山野草の庭)

今回の《まちめぐり》は台風の影響で一日順延となったため、参加者が少なかったのですが、和気あいあい、コミュニケーションも十分とれて楽しいひとときでした。

(上野)

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「おくさわ」のまちとお祭り

奥沢二丁目 酒匂 輝雄

「おくさわ」-- 静かな感じの名前。出先から帰った時など何か落ち着きます。緑多く、昔からの家々もあり、安らげる。ほとんどが顔見知りの人達で何十年と言うお付き合いの方々が大勢住んで居られる土地です。そこで長く青果店を営む私がいつも心がけて居るのは、誰とでも、そしてひとりでも多くの方と笑顔であいさつする事です。御年配の方は種々の昔話をゆっくりとします。私も年寄りになったせいかよく話が合います。朝は店の前を通る保育園の園児さんたちと「お早う！」のハイタッチをして若さをもらいます。晴れの日「お天気で良かったね」、雨の日「きれいなブーツはけて良かったね。きれいな傘だね」と声をかけます。それに応えて足を上げたり、傘をグルグル回しながら通って行く子供たちを見るのは楽しいです。すぐ側の停留所からバスに乗る方も「まだ行ってないね」など言葉を交わします。「病院」や「買い物」、あるいは「ないしょの所」と目的地を告げて、笑いながらバスに乗る人。帰りに種々報告をして下さる方も居ます。

ところで皆さん、お祭りは好きですか？ 子供の頃の楽しい思い出がたくさんありませんか？ 私たち地元商店のみんなもお祭りが大好きです。そんな我々とみなさんとが力を合わせて作るのが「厄除け大蛇みこし」、都内では珍しい手作りの神輿です。小学生から70歳以上の参加者のほとんどが地元の小学校の同窓生。作りながら昔の話が出たりして楽しい場になっています。大蛇の顔の出来が毎年少しちがうのも手作りだからこそ。がまんしてネ。お祭りの当日も、担ぎ手、見て下さる方ともに年々増えて嬉しいです。今日一日がんばって、トラブルや事故など無いように、との思いで見送ります。

いつもお手伝いして下さる地元のみなさん、ありがとうございます。みなさんの力を借りてずっと続けて行きたいです。

そしていつまでも、この小父さんとお友達でいて下さい。奥沢は生まれ育った私の「ふるさと」です。

散歩の途中で…

奥沢二丁目 松下 圭子

秋の訪れとともに、金木犀の甘い香りが奥沢の住宅街を包みます。秋冷が心地良く、散歩の足取りも軽い季節。2年前の夏、我が家にやってきた柴犬のお陰で、散歩が日課となりました。今まで知らなかった奥沢のあちらこちらを歩いていますが、手入れの行き届いた庭が多く、色付き始めた木々や秋の花々が目を楽しませてくれます。

奥沢に住み始めて17年近く。当時1歳だった長男は、高校3年生です。長男は八幡小学校に通い、八幡イーグルスで少年野球に汗を流しました。小学時代の仲間とは今でも仲良しで、お母さん同士の楽しいお付き合いも未だに続いています。

横浜に住んでいた主人の両親が、住みかえの為に物件を探していた時も、条件を満たす物が見つからず、私達もここを離れ難く、結局、住んでいた家を二世帯住宅に建て替えることにしました。そして4年近く前に、80代の両親も奥沢の住民になりました。

両親も奥沢を気に入って「土とみどりを守る会」のつどいや街並みウォッチングにも何回か参加させて頂きました。

その父が、10月の連休中、ひとりで散歩に出て転んでケガをしてしまいました。後を追った母が父を見つけた時には、すでに通りがかった方が呼んで下さった救急車が到着していました。父は、5月に体調を崩しており心配したのですが、幸い大事に至らず、三日の入院で帰宅することができました。お世話になった方にお礼を申し上げたいと思いながら、お名前もわからないままおられます。ご親切にして頂き本当にありがとうございました。その時、奥沢に住んでいて良かったと改めて感じました。落ち着いた街並みや生活に便利だけでなく、地域の方々も良い方ばかりで、困った時には、いつも助けて頂いています。

まだまだ新参者ですが、奥沢は私達家族のふるさとのひとつです。好きな街に暮らせる幸せを大切にしたいと思います。

街の落ち葉掃きプロジェクトについて

土とみどりを守る会では、みどりを守り育てるという会の設立趣旨にそった活動として、世田谷区の助成・支援を受け、「かわい宣言」の締結、「地域風景資産」の登録支援、「奥沢グリーンマップ」の制作、「住宅地のみどり保全活用ガイド」の制作などに取り組んできました。そして今年度は、世田谷区の平成22年度「地域の絆再生支援事業」に「街の落ち葉掃きプロジェクト」を応募し、採択されたことをご報告いたします。

(以下、区への申請書類から抜粋)

事業名称：街の落ち葉掃きプロジェクト

将来の目標：多くの人に参加する落ち葉掃きを通じ、地域の共有財産としてのみどりの意識が芽生えると同時に、災害時などに力を発揮する地域のコミュニティ作りの契機となる。

事業の内容：みどり33計画を実現するために住宅地の庭木を維持することが求められているが、庭木の落ち葉が近隣に迷惑となり樹木を切らざるを得ないケース、あるいは所有者が高齢で落ち葉の掃除に困るケースもある。そのような樹木を維持するために、庭木の恩恵による良好な住環境を享受している住民有志が協働して落ち葉を清掃し、庭木所有者の負担や気苦労を少しでも軽減するという流れを作る。

(補助金決定額：130,000円)

落ち葉掃きは、春の総会で会員アンケートをとった結果、上位となったテーマです。今年度は、奥沢2丁目の地域風景資産で選定されたエリアを中心に落ち葉掃きの試行(11月～12月頃)を行うことを予定しています。落ち葉掃きの試行は、土とみどりを守る会の会員有志を中心に行いますが、日時等決まりましたら、掲示板等でご案内させていただきますので、皆様のご協力、ご参加もどうかよろしくお願いいたします。

そして、晩秋のつどいに、成城と桜新町で落ち葉掃きの取り組みをされている方々をお招きし、お話をうかがいます。こちらもどうぞふるってご参加ください。

土とみどりを守る会「晩秋のつどい」

日時：11月27日(土)午後1:30～4:00頃

会場：奥沢東地区会館大会議室にて

催物：1. お話「奥沢みどりの街づくり

(街の落ち葉掃きプロジェクト)」

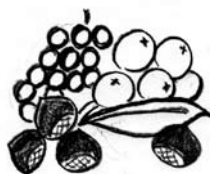
ゲスト：中川 清史さん(成城自治会副会長)

三羽 和彦さん(桜新町親和会副会長)

2. 奥沢コンサート

ソプラノ：小川 えみさん

「街の落ち葉掃きプロジェクト」は新しい取り組みなので、今年度は試行ということで一部の地域で行います。試行で得られた経験を活かして、来年以降に対象地域を拡大することができればと考えています。どうかご意見、ご希望等ありましたらお寄せ下さい。(堀内)



描かれた奥沢とその周辺

③三田英彬「芸術とは無慚なもの」

前回とり上げた本多秋五は戦後いち早く文芸誌・「近代文学」を立ち上げましたが、数年後、その同人らが奥沢の一隅に集ったことがあります。当日の様子が、画家・鶴岡政男の評伝「芸術とは無慚なもの」に活写されています。

九月五日、鶴岡は目蒲線の奥沢駅に降り立った。次々と異色な顔触れが続いて来る。東京ではまだ残暑のきびしい季節のことで、彼らは汗を拭き拭き、教えられた道を世田谷区奥沢の自由美術会員末松正樹宅へ、三々五々歩んだ。花田清輝、椎名麟三、埴谷雄高、安部公房、寺田透、荒正人、佐々木基一たち「近代文学」同人の小説家や文芸評論家の面々と、鶴岡政男、森芳雄、井上長三郎、吉井忠、佐田勝ら自由美術家協会会員の画家たちであった。末松正樹が音頭をとって、画家と文学者が一緒になり、新しい芸術運動を起こそうじゃないかという集まりである。まずは座談会が組まれていた。(略) 美術家と文学者が一つになって、新しい芸術運動を起

(シリーズで小説や随筆に登場する奥沢の様子を紹介します。)

こせないものか。一旗上げてみたいという若々しい気運がこの頃動いていた。戦後もやや落ち着いた、さあこれからという気負いがあった。(略) 瀟洒なアトリエの窓を開け放ち、風を入れながらの語り合いとなった。この年、安部公房はちょうど「壁—S・カルマ氏の犯罪」(近代文学 昭和26年・二月号)で、芥川賞を受賞していた。賞品の腕時計をはめてきており、それを画家たちがめずらしげに手にとって見て、安部公房を照れさせるなどという一幕もあった。

この時の座談は画家と文学者の意識のずれが露見して必ずしも成功しなかったようですが、文中にもあるように、戦後の復興期、希望と自由を取り戻した芸術家たちの清新な息吹が感じられるエピソードではないでしょうか。そして、もしかすると現在でもこの奥沢のどこかで、意欲ある人々の、気どらない、けれど熱い会合が催されているのかもしれない。(香山)

フラワーアレンジメント講習会報告

8月26日に行われたフラワーアレンジメント講習会は20名の参加を得、マミフラワーデザイン講師の佐藤暁美先生の指導のもと楽しく行われました。佐藤先生は国内はもちろんシニアボランティアとして、国際協力機構より派遣され、スリランカやアルゼンチンなどでも活躍されています。

今回のテーマは「花くぼり」、切花を、土や根に代わって支えてくれる自然素材(枝、茎、つるなど)と支えられる草花が一体化することで居心地良い空間が醸し出されるといった手法で、私自身も空間にとり込まれてしまいました。各々個性的で楽しい作品を眺めあい、先生の講評を聞きながら皆さんでお茶をいただきました。自己表現できた2時間でリフレッシュできたように思います。次回が楽しみです。(杉村)

会からのお知らせ

●晩秋のつどいは11月27日(土)午後1時30分から、奥沢東地区会館で催します。第1部は「奥沢みどりの街づくり」のお話、第2部・おくさわコンサートは小川えみさんのソプラノです。フラワーアレンジメント講習会の写真展示と寄付頂いた花鉢の頒布も予定していますので、皆様どうぞお誘い合わせてお出掛け下さい。

●土とみどりを守る会の事務所を下記へ移転しました。住所 世田谷区奥沢2-32-11 堀内宅)、TEL、FAX 03-5701-5903、ホームページ、e-mailに変更

はありません。

●土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ御協力をお願い致します、ご連絡は下記へ。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

ホームページ : <http://tsuchimidori.net>

e-mail : info@tsuchimidori.net